

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0804
施設名	西篠崎おひさま保育園
施設所在地	江戸川区西篠崎2-6-11
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

水遊び、プールなど水に触れて遊ぶことが大好きな子ども達が、水道で手洗い、うがいをしている時に「水はどこからくるのかな?」とつぶやく児がいた。この「どうして」をみんなで考えながら「水」について調べ考えていこうとテーマに設定した。

2. 活動スケジュール

- 1、水はどこからきているか考える (6月)
- 2、水遊び プール 色水遊び、寒天遊び (様々な感触を体験、色の変化を楽しむ) (7月、8月)
- 3、氷遊び (溶け方、感触、感覚を観察) (9月)
- 4、砂場で水の道路作り (道路作りをし水の流れを考える) (10月、11月)
- 5、水の道路を玩具を使って遊ぶ (玩具を使って水を流したり水を溜めるにはどうするか体験を通し考え水路作りをする) (12月)
- 6、コップに水を入れ氷になるか検証 (気温が関係していることを学ぶ) (1月)
- 7、雪遊び (2月)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【教材、道具】

たらい、水遊び用玩具、プール、絵の具(赤、青、黄色)、寒天、製氷機、砂場用玩具、水の水路を作るための玩具、バケツ、タッパ、バケツ、シャベル

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

まず、水はどこから来ているのかクラスで考えた。雨が降っているから空からくる。水道から水が来ているから下水道など理由もつけて発表した。水遊びとプール遊びを通し、水を使って色水遊びをした。色を混ぜると違う色になることや太陽の光の量で水が光る事に気が付いた。寒天あそびでは、どんな方法で固めたのかを保育者に聞き、水は何かを加える事で固まる事にも興味を持っていた。後半は砂場を使い、泥団子作りや水の水路を作った。1月になると気温が下がったため、水を戸外に出し、氷になるか毎日観察し、雪が降った日に表面が氷になったこと。水が気温によって、形を変える事や、温度が変わり、感じる冷たくなる事、感触が変わる事への気づきが見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

遊びの中で「水」を使っている事が多く、子ども達から「こんな遊びをしたい」という好奇心が回数が増えることに大きくなってきた。上手いかないこともあったが、「どうしたら上手くいかな」という好奇心が育った。水はどこから来るのか?と子どもの声を聞き、クラス全体で考えたり水が遊びや生活に欠かせないものであると気が付いた。夏のプール・水遊びでは、水の心地よさや楽しさ、身体的機能の発達・水に反射する光を見たりと五感を使って遊ぶことができた。色水・泡遊び・寒天遊びを通し水は色々なことに使えることも経験を通し、理解することができた。運動会ではテーマを「水」にし、パラバルーン・親子競技を水に関わるものにした。親子競技「海へのお買い物」では「海の水も水だけどしょっぱい」と水と海水の違いを知ることができた。砂場遊びで、山や道路作りが始まり「水が流れるか、やってみよう」と遊びが発展した。1回目、途中で止まり「なぜ?」と考え、「ここを掘ってみよう」「斜めにしよう」と工夫し、高い所から低い所へ流れることを学んだ。雪遊び・氷遊びを通して気温が0℃以上で雪や氷がでいることを知り、気温が上がると溶けて水になることを見る事が出来た。子ども達の声を聞き、一緒に考えたりやってみようとして挑戦しながら、水について色々と感じることが出来るように援助した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

最初の頃から水に対して子ども達が興味を持っていたが、すくわくプログラムを行っていくに連れて日々の中で自然と子ども達から「これも水使っているね」という気づきが沢山あった。遊びの中で「こんな風にやりたい」という意見が一つ出すとどんどん増えて、探求心が育ったと感じた。遊びの中で「水」を使っている事が多く、子ども達から「こんな遊びをしたい」という好奇心が回数が増えることに大きくなってきた。上手くいかないこともあったが、「どうしたら上手くいくかな」と考える事で、考える力が育った。また、テーマに沿って継続していくことで、子ども達の興味関心が増していく事を感じた。